



Title	ニーベルンゲンの歌におけるgân の用法 : 現代語訳ではkommen で訳されている例を対象に
Author(s)	渡辺, 伸治
Citation	言語文化研究. 2019, 45, p. 125-142
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71635
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ニーベルンゲンの歌における *gân* の用法
—現代語訳では *kommen* で訳されている例を対象に—

渡 辺 伸 治

Zum Gebrauch von *gân* im Nibelungenlied
—**anhand von im Gegenwartsdeutsch mit *kommen***
übersetzten Beispielen—

WATANABE Shinji

In diesem Beitrag untersucht der Verfasser anhand des Nibelungenlieds und dessen zwei neuhochdeutschen Übersetzungen das mittelhochdeutsche Verb *gân*. Er klassifiziert dabei die Stellen, in denen *gân* in den Übersetzungen mit *kommen* übersetzt sind. Als Ergebnis stellt er fest, dass *gân* mit *kommen* übersetzt ist, wenn 1) die Bewegung zum Sprecher bzw. zum Hörer gerichtet ist, wenn *gân* 2) mit Verben des Sehens bzw. kausativen Verben und 3) in der Narration gebraucht ist. Den Grund dieses Ergebnisses führt er auf die deiktische Eigenschaft des neuhochdeutschen *gehen* und den Perspektivenwechsel zurück.

キーワード：ニーベルンゲンの歌, *gân*, ダイクシス

1. はじめに

現代ドイツ語の *gehen* は、通常、話し手、聞き手がいる場所への移動を表すことはできない。ダイクシスの制約を持つということである。例えば、話し手がいる場所への移動、あるいは聞き手がいる場所への移動は、*gehen* で表すことはできない¹⁾。

(1) a. *Geh/komme her!

b. Ich *gehe/komme gleich. (電話で)

それでは、中高ドイツ語の *gân* も同じ制約を持っていたのであろうか。さらに言えば、中高ドイツ語の *gân* と現代ドイツ語の *gehen* の用法は異なるのであろうか。異なっているとすればどのように異なるのであろうか。このような問題意識から *gân* の考察をおこなった先行研究は、

1) 詳しくは渡辺 (1988), Di Meola (1994), Watanabe (2002), Watanabe (2010) を参照されたい。また、英語の *go/come* のダイクシスを考察した Fillmore (1972), 渡辺 (2016) も参照されたい。

管見の限り、中高ドイツ語の *gân/komen* のダイクシスを考察した Shigeto (2010) のみである。その中で、Shigeto は、ニーベルンゲンの歌の原文と現代語訳を比較し、本稿に関連するものとしては次の三つの例を挙げている。それは、1) 話し手がいる場所への移動が原文では *gân*、現代語訳では *kommen* の例、2) 聞き手がいる場所への移動が原文では *gân*、現代語訳では *kommen* の例、3) 同じ状況が原文では *gân* と *komen* で表されているが、現代語訳ではともに *kommen* で表されている例の三例である。そのうえで Shigeto は、*gân* には上で述べたようなダイクシスの制約がみられないことを指摘している。本稿もこの指摘に従うものであるが、Shigeto が挙げる *gân* の例は三例のみであり、さらなる精密化が必要である。

本稿は、以上のような問題意識のもと、ニーベルンゲンの歌とその現代語訳を用いることで、*gân* の用法の、より精密な記述をおこなうものである²⁾。もちろん、ニーベルンゲンの歌で用いられている *gân* が中高ドイツ語における *gân* の全体像を示すかどうかは他の資料を考察しなければわからない。本稿は対象をあくまでニーベルンゲンの歌に限定した形での考察である。

2. 先行研究

上で、本稿に直接関係する先行研究として Shigeto (2010) を挙げたが、さらに二つの先行研究が関係する。以下、概略する。

第一の先行研究は渡辺 (1988) である。渡辺は現代ドイツ語の *gehen* の用法を次の三つの用法に分類している。この分類は *gân* にもあてはまるためそのまま踏襲する。

- (2) a. Das Baby kann schon gehen. (p.59) = 用法1
- b. Schade, daß Sie schon gehen müssen. (p.60) = 用法2
- c. Paul geht morgen in die Stadt, um das Buch zu kaufen. (p.60) = 用法3

用法1は移動の様態を表す用法、用法2は出発を表す用法³⁾、用法3は方向規定詞などと共起して到着点を指向した移動を表す用法である。以下、「用法1, 2, 3」という記述はこの用法を示すものとする。本稿ではさらに次のような例も用法1に含めることにする。

- (3) Da geht mein Lehrer.

この例は「あそこで私の先生が歩いている」のように訳せるが、移動の様態は必ずしも焦点化されているわけではない。しかし、到着点を指向した移動が生じているわけでもないからである。

以上、用法1, 2, 3をみたが、ダイクシスの制約を持つ用法は、用法3のみである。ダイクシスの制約は、「到着点」が問題になる制約であるから、到着点が無関係の用法1, 2がダイク

2) 古英語の *gan* と *cuman* を対象にしたものであるが、本稿の問題設定にとっては Unebe (1990) も参考になる。

3) この用法では移動主体が出発点にいないことが問題になるのであり、どこに行くかは問題になっていない。*gehen* の用法の分類に関しては Watanabe (2010) も参照されたい。

シスの制約を持つことはありえないからである。

第二の先行研究は、現代ドイツ語の gehen/kommen を考察した Di Meola (1994) である。本稿に関連する指摘は二つある。第一の指摘は、発話動詞 sagen の間接話法中で gehen/kommen が用いられた次の例に関する指摘である。

(4) a. Petra hatte ihrem Freund gesagt, daß er sie doch bald besuchen kommen sollte. (p.36)

b. ?Petra hatte ihrem Freund gesagt, daß er sie doch bald besuchen gehen sollte. (p.36)

すなわち、Di Meola は、kommen を用いた (4)a は適格であるが、gehen を用いた (4)b は不自然になるとしている。その理由は、(4) の移動は、主節主語の Petra のいる場所への移動になっているため、主節主語の Petra の立場から見ると、到着点が話し手 (=Petra) がいる場所になるからであるとしている。gehen のダイクシスの制約は、「主節主語」が「話し手」の立場になる場合にも適用されるということである。以下、この制約を「主節主語制約」と名付けることにする。Di Meola は同様な例として、以下に挙げる心理動詞 hoffen の例を挙げている。

(5) Petra hoffte im Stillen, daß ihr Freund sie bald besuchen kommen⁷gehen würde. (p.36)

第二の指摘は、語りにおける視点の取り方の指摘である⁴⁾。すなわち、(6)a は視点人物が部屋の中にいる場合であり、(6)b は視点人物が部屋の外にいる場合であるとする指摘である。

(6) a. Peter kam in das Zimmer. (Beobachter im Zimmer) (p.35)

b. Peter ging in das Zimmer (Beobachter außerhalb des Zimmers) (p.35)

3. 考察

本稿ではニーベルンゲンの歌を資料に、A concordance to the Nibelungenlied にもとづき gân が用いられている箇所を抽出した。それは、変化形も含め404例あった。内訳は、gân (164), gânt (2), gât (17), gê (5), gegân (18), gên (21), gênde (1), gênt (3), gêt (7), gie (114), gienc (3), gienge (4), giengen (45) である。続いて、中高ドイツ語と現代ドイツ語の対訳をおこなっている Brackert 版と Schulz/Grosse 版において当該箇所が少なくともどちらかの版において kommen で訳されている例を抽出した⁵⁾。該当する例は57例であるが、熟語等を除くと該当する例は54例になる。以下、全例を挙げ、分類しながら考察をおこなう。

考察で用いる主な説明原理は、上で説明した、用法1, 2, 3の分類、ダイクシスの制約、視点の取り方という三つである。

3.1 話し手がいる場所「ここ」への移動を表す gân (=用法3) の例

3.1節の例は、her が共起している例と、her は共起していないが、共起関係上あるいは文脈上

4) 視点とダイクシスの問題に関しては渡辺 (2016) も参照されたい。

5) kommen が基礎動詞になっている分離動詞等も抽出する対象にしている。

「ここ」への移動を表すと解釈できる例に下位分類できる。「ここ」への移動は上でみたように、現代語の gehen では表すことはできない移動である。実際、現代語訳で gehen が用いられている例はなかった。なお、この例の gân はすべて、到着点を指向した移動を表す用法 3 の gân である。

3.1.1 her と共起している gân の例

her は、通常は発話時に発話者がいる場所、すなわち「ここ」への方向性を表す。そのため、現代ドイツ語の gehen はダイクシスの制約により、「ここへ来る」という意味では her と共起できず⁶⁾、共起する場合には「後をついていく」という別の意味になる。しかし、ニーベルンゲンの歌では、「ここへ来る」という意味の gân が her と共起している例が比較的多くみられる。これらの例の中には、当該の移動が必ずしも「ここ」への移動であるか明確には判断できないものもあるが、以下、gân が her と共起して使用されている例を下位分類しながら見ていこう。

第一は sollen と共起している次の二例⁷⁾である。これらの例では話し手が移動主体が来ることを求めているという点で移動主体への働きかけみられる⁸⁾。

- (7) a. Dô sprach der künec Gunther: / „er sol her für gân! 855
 b. Da sagte König Günther: „Siegfried soll herkommen!
 c. Da sagte König Günther: „Siegfried soll herkommen!
- (8) a. Si sprach in ir zühten; / „nu lâit die rede stân / unze morgen fruo, / sô sult ir her gân! 1241
 b. Sie sagte in edlem Anstand: „Nun laßt uns die Entscheidung bis morgen früh vertagen. Dann sollt Ihr wieder herkommen!
 c. Sie sagte in ihrer edlen Haltung: „Nun lasst das Gespräch bis morgen früh ruhen, dann sollt Ihr wieder herkommen.

第二は、主語が一人称である知覚動詞 sehen の不定詞句中で gân が用いられている次の二例である。

- (9) a. Dô sprach der videlaere: / „ich sihe dort her gân / sô rehte vïentfliche / die Dietriches man 2253⁹⁾
 b. Da sagte der Fiedler: „Ich sehe die Gefolgsleute Dietrichs feindlich nahen,
 c. Da sagte der Fiedler: „Ich sehe dort die Männer Dietrichs in feindlicher Absicht herkommen.

6) なお、小学館・大独和辞典によると南部ドイツ、オーストリアでは現代語でもこの用法は可能である。

7) 以下、a は Brackert 版の原文であり、原文末の番号は詩節を表す。b は Brackert 訳である。c は Schulz/Grosse 訳である。Brackert 版は Bartsch/de Boor 版を参考にしたものであり、Schulz 訳は b 写本を底本にしているという違いがあるが、本稿の問題設定にとってはこの違いは影響を与えないと考える。

8) Unebe (1990) は「ここ」への移動を表すために命令形で用いられた古英語の gan の例を挙げている。ニーベルンゲンの歌では kommen で訳されている gân の命令形の例はなかった。

9) この例は Shigeto (2010) が挙げている三つの例の一つである。

- (10) a. ich sihe dort her gân / den herren Dietrichen 2326
 b. Ich sehe dort den Herrn Dietrich herankommen.
 c. Ich sehe dort Herrn Dietrich herankommen.

第三は、主語が二人称である知覚動詞 schouwen の副文中で gân が用いられている次の一例である。これは第二のタイプに準ずるものとしてよいであろう。

- (11) a. Nu schouwet, friunt Hagene / wâ si dort her gât. 1773
 b. Nun seht, Freund Hagen, wie sie daherkommt,
 c. Nun seht, Freund Hagen, wie sie dort einherschreitet,

第四は、使役動詞の不定詞句中で gân が用いられている次の四例である¹⁰⁾。これは sollen の場合同様、移動主体への働きかけがみられる用法である。

- (12) a. nu heizet her gân / der iu dar zuo gevalle, / den sul wir voget wesen lân. 522
 b. Nun laßt den Mann vor uns kommen, der Euch für diese Aufgabe geeignet erscheint: den wollen wir dann als Landesverweser einsetzen.
 c. Nun ruft den herbei, der Euch dafür am besten geeignet erscheint, den werden wir als Vogt einsetzen.
- (13) a. Dô sprach diu küneginne: / „heizet here gân / den fürsten von dem Rine. 851
 b. Da sagte die Königin: „Bringt mir den Fürsten vom Rhein.
 c. Da sagte die Königin: „Bittet den Fürsten vom Rhein herzukommen.
- (14) a. Si sprach: „ir sult in morgen / heizen her gân / zuo mîner kemenâten. 1222
 b. Sie sagte: „Laßt ihn morgen zu meiner Kemenate kommen.
 c. Sie sagte: „Bittet ihn, morgen in meine Kemenate zu kommen.
- (15) a. und lât si her in gân! 2075
 b. und laßt sie hereinkommen!
 c. und lasst sie hereinkommen.

第五は ze hove が共起している次の一例である。

- (16) a. ir sult vil wol empfähen / die edelen künege hêr, / sô si mit ir gesinde / her ze hove gân. 1651
 b. Ihr sollt die edlen, erhabenen Könige prächtig empfangen, wenn sie mit ihrem Gefolge hierher an den Hof kommen.
 c. nehmt bitte die angesehenen edlen Könige sehr gut auf, wenn sie mit ihrer Gefolgschaft hierher an den Hof kommen.

gân が ze hove と共起している例は以下で見ると散見されるが、ze hove gân という語句は「参

10) Unebe (1990) は「ここ」への移動を表すために使役動詞の不定詞句中で古英語の gan が用いられている例を挙げている。

内する」という意味の語句としてイディオム化している可能性はある。この場合には、zur Schule gehenと同じような用法ということになる。

3.1.2 共起関係上あるいは文脈上「ここ」への移動を表すと解釈できる gån の例

以下の三例である。第一は uns hie engegene が共起している次の例である。この例は上でみた (9), (10) 同様, gån が知覚動詞 sehen の不定詞句中で用いられている。

- (17) a. ob ich uns hie engegene / sæhe den küneç gån / mit allen sînen recken, 1778
 b. Und wenn ich den König mit allen seinen Recken hier heranziehen sähe,
 c. Wenn ich hier den König mit allen seinen Recken uns entgegenkommen sähe,

第二は, zuo disem hûse が共起している次の例である。3.1 節に挙げる gån は, この例のみが過去形で用いられている。その他の例では, gån はすべて不定詞あるいは現在形で用いられている。

- (18) a. ez giengen zuo disem hûse / iuwer degene / gewâfent wol ze vlize, 2333
 b. Eure Helden kamen in voller Bewaffnung in riesiger Schar hierher zu diesem Haus.
 c. Eure Ritter sind sorgfältig bewaffnet, in einer großen Menge zu diesem Haus gekommen.

第三は, ze hove が共起している次の例である。この例は, 共起関係からは「ここ」への移動であることが明示化されないが, 文脈上, 移動は「ここ」への移動であると解釈できる例である。

- (19) a. „Willekomen sî mîn bruoder / und der geselle sîn! / diu mære ich weste gerne“, / sprach daz magedîn, / „waz ir herren woldet / sît ir ze hove gât. 349
 b. „Seid mir willkommen, Bruder!“ sagte die Jungfrau, „und auch Ihr, sein Gefährte! Dürfte ich wohl wissen, was Ihr Herren mit diesem Besuch bezweckt?
 c. „Willkommen sei mein Bruder und sein Gefährte. Ich wüsste gern“ so sagte das junge Mädchen, „was Ihr Herren wollt, da Ihr an den Hof kommt.“

3.2 聞き手がいる場所への移動を表す gån (=用法 3) の例

以下の三例である。これらの例も前節の gån 同様, 用法 3 の gån である。現代語訳が gehen で訳している例はなかった。

- (20) a. Dô sprach meister Hildebrant: / „wer sol zuo iū gên? 2318
 b. Da sagte Meister Hildebrand: „Wer sonst soll zu Euch kommen?
 c. Da sagte Meister Hildebrand: „Wer soll zu Euch kommen?
 (21) a. Lât hœren“, sprach Dietrich / „recke Hagene, / waz ir beide sprâchet, / snelle degene, / dô

ir mich gewâfent / zuo iu sâhet gân?¹¹⁾ 2346

- b. Hagen, Du Recke“, sagte Dietrich, „laß doch hören, was Ihr tapferen Helden saget, als Ihr mich in Waffen nahen sahet?
- c. Lasst hören“, sagte Dietrich, „Recke Hagen, der Ritter, was Ihr beiden sturmerproben Ritter miteinander gesprochen habt, als Ihr mich in Waffen zu Euch habt kommen sehen.
- (22) a. mich bat iuwer bruoder / durch helfe zuo ze iu gân 1977
- b. Euer Bruder hat mich gebeten, Euch zu Hilfe zu kommen.
- c. Euer Bruder hat mich gebeten, Euch zu Hilfe zu kommen.

以上, 3.1, 3.2節をまとめると, gehen は基本的には話し手, 聞き手のいる場所への移動は表せないが, gân は表せるということになる。Shigeto が指摘するように gân はダイクシスの制約を持たないのである。

3.3 用法1と用法3の解釈が可能な gân の例

上で, 渡辺 (1988) が規定する gehen の三つの用法の分類を概略したが, 本節では, そのうちの用法1と用法3の解釈が可能な gân の例を考察する。二つの解釈が生じるのは, 到着点を表示する語句が共起していないため形式的な判断ができず, 文脈上も判断が難しいからである。それでは, まず, 次の例をみていこう。

- (23) a. sô wil ich wol gelouben / swie ez dar umbe stât, / daz ez sî der recke, / der dort sô hêrlichen gât. 86
- b. aber ich nehme doch –was immer seine Ankunft bedeuten mag– als sicher an, daß er der Recke ist, der dort so herrlich herankommt.
- c. so möchte ich wohl annehmen, wie immer es sich verhält, dass er der Recke sein kann, der dort so stolz auf und ab geht.

この gân は, 現代語の感覚からは直感的には用法1の gân と思われる gân であろう。現代語訳 c もこの解釈である。ただし, 事実レベルでは移動は話し手のほうに向かった移動であることもありえる。しかし, 用法1の解釈では, いずれにせよ, 話し手は移動を到着点を指向したものと認識していない¹²⁾。

なお, 原理的には, (23) の gân は用法3として解釈することも可能である。すなわち, 原文の話し手は, 移動主体が自分のほうに向かってくと認識しているにもかかわらず, gân を用いているという解釈である。her は共起していないが, 自分のいる場所を到着点とした移動であると認識している点では, 3.1.1でみた her が共起している用法 (=用法3) と事実上同じ用法ということになる。

11) この例は Shigeto (2010) が挙げている三つの例の一つである。

12) 到着点指向性の認識と事実レベルの移動の関係については検討が必要である。今後の課題としたい。

なお、現代語訳bの訳者は herankommen で訳しているが、訳者が (23) の gån をどのように解釈したかの可能性は二つある。一つは、用法1と解釈した可能性である。訳者は、この場合には herankommen で訳すことで方向性の認識を付加していることになる。もう一つは、用法3と解釈した上で、ダイクシスの制約を持つ用法3の gehen で訳すことはできないため、herankommen で訳したという可能性である¹³⁾。これは現代語訳の問題であるが、原文の gån はどちらの解釈が妥当なのであろうか。形式的、文脈的判断基準がない以上推測の域を出ないが、この例で話し手が問題にしているのは、眼前を歩いている武士がジークフリートであるということであるから、到着点を指向した移動の認識は二次的な問題になると思われる。この観点からは用法1ということになろう。

以上のような問題は、Shigeto (2010) が挙げている三つの例の一つである次の例にもみられる。

- (24) a. Seht ir, friunt Hagene / dort Íringen gån / der iuch mit dem swerte / lobte eine bestân?
2033
- b. Freund Hagen, seht Ihr Iring dort herankommen, der gelobt hat, er wollte allein mit seinem Schwert gegen Euch kämpfen?
- c. Seht Ihr, Freund Hagen, Iring dort herkommen, der versprochen hatte, Euch mit dem Schwert allein anzugreifen?

この例は現代語訳ではともに her (an) kommen で訳されている。それでは、この場合には、gån は用法1なのであろうか、あるいは用法3なのであろうか。この例で話し手が問題にしているのは、Iring が一人で戦うと言ったことであるから、前例同様、到着点を指向した移動は二次的な問題になると思われる。この観点からは用法1ということになろう。しかし、この例は、事実レベルでは、Iring らの軍勢が、Hagene、話し手である Volker らがいる場所に向かって移動していることを表しているから、到着点を指向した移動の認識もあるとすることもできるかもしれない。判断が難しいところである。

同様に、次の例は上の例と同じく詩節2033からの例である。現代語訳ではともに kommen で訳されている。用法1と用法3の解釈が可能な点も同様である。

- (25) a. ez gênt mit im gewâfent / wol tûsent recken oder baz. 2033
- b. Mit ihm kommen wohl tausend oder sogar noch mehr Recken in Waffen.
- c. Mit ihm zusammen kommen wohl tausend bewaffnete Recken oder gar noch mehr.

話し手がこの例で問題にしているのは、一人で戦うと言った Iring が千人以上の軍勢を従えていることであるから、前例同様、到着点を指向した移動の認識を付加する必要はないと思われる。しかし、(24) 同様、判断は難しい。

13) 現代語訳bでは、swie ez dar umbe stât の訳で Ankunft が用いられている。これはbの訳者が用法3の解釈をしていることの表れかもしれない。

なお、次の例は、(24) の直前の詩節であるが、Shigeto は、同じ移動が (24) では gân, (26) では kômen で表されていることを指摘している。

- (26) a. Dô sach der videlære / eine vil grôze schar, / die mit Iringe / gewâfent kômen dar. / si truogen ûf gebunden / vil manegen helm guot. / dô wart der küene Volkêr / ein teil vil zornec gemuot. 2032
- b. Da sah der Fiedler eine riesige Schar, die zusammen mit Iring in Waffen daherkam. Sie trugen viele feste Helme auf dem Kopf. Da wurde der tapfere Volker sehr zornig.
- c. Da sah der Fiedler eine sehr große Menge mit dem bewaffneten Iring daherkommen. Sie trugen viele gute Helme aufgebunden. Da wurde der mutige Volker sehr zornig.

Shigeto はこの違いが生じる要因について触れていないが、これは、文脈から説明できると思われる。すなわち、(26) では、移動は Fiedler が知覚したものとして描かれているが、いずれにせよ、この部分は、Iring らが Hagene, Volker, Fiedler らを攻撃するためにやって来たことが問題なのであるから、到着点を指向した移動であることが重要になる。そのため komen が用いられているということである。到着点を指向した移動が問題なる場合には kômen が用いられると考えれば、用法 1 か 3 かの解釈が難しい (24), (25) は用法 1 の解釈が優勢ということになろう。以下では、便宜上、用法 1 の解釈を優先させ、(24), (25) のような例を用法 (1) と記述することにする。なお、到着点を指向した移動が問題になる場合には必ず kômen が用いられるとすることはできない。3.1 節でみたようにこの場合であってももちろん gân を用いることができるからである。移動を引き起こすことが表されているかどうか、会話か語りか、といったような要因が関係すると思われるが、詳しい考察は今後の課題である。

3.4 知覚動詞の副文、不定詞句中で使用されている gân の例

第二章では、Di Meola (1994) にもとづき、gehen/kommen の使用の適格性は、間接話法中では主節主語が基準になることを概略し、これを主節主語制約と名付けた。もっとも、ニーベルンゲンの歌では、現代語が kommen で訳している gân が sagen 等発話動詞と共起した例はなかった。しかし、類似した環境として、知覚動詞 warten (一例のみ) の副文中、sehen (それ以外すべての例) の不定詞句中で gân が用いられている例は数多くあった。本節ではこれらの例を考察する。ただし、Di Meola (1994) が挙げる例文 (4), (5) と同じ状況で、移動が主節主語へ向かっていることが一義的に判断できる例は次の一例のみであった。

- (27) a. er warte ob iemen wolde / noch zuo ze in mit strîte gân. 2079
- b. Er paßte auf, ob jemand käme, um mit ihnen zu kämpfen.
- c. Er beobachtete, ob immer noch jemand kommen wollte, um mit ihnen zu kämpfen.

この例の gân は用法 3 であるが、この例の状況は、Di Meola (1994) にもとづくと、現代ドイツ語の gehen の使用は不自然になる状況である。しかし、実際は gân が使用されている。gehen と

異なり, *gân* は知覚動詞では主節主語制約を持たないということである。

それでは, 以下, 残りの例を用法別に挙げることにする。大部分は用法(1)である。なお, 知覚動詞と共起しているが, *her* とも共起している例は, 3.1節で(9), (10), (11)として挙げてある。

3.4.1 用法(1)の例

まず, 現代語訳がともに *kommen* で訳している例である。

- (28) a. Dô sah der junge Giselher / sînen sweher gên 2171
 b. Da sah der junge Giselher seinen Schwiegervater mit dem Helm auf dem Kopf herankommen.
 c. Da sah der junge Giselher seinen Schwiegervater mit aufgesetztem Helm kommen.
- (29) a. wa gesâhet ir ie durch suone / sô manegen helt gân / mit ûf gebunden helmen, / die trüegen swert enhand? 2173
 b. Wo saht Ihr wohl schon jemals so viele Helden mit dem Helm auf dem Kopf und mit den Schwerten in der Hand herankommen, wenn sie sich für eine Sühne einsetzen wollten?
 c. Wo habt Ihr jemals so viele Helden mit Helm und Schwert kommen sehen, um eine Versöhnung zu erreichen?
- (30) a. Dô sach der küene Volkêr / wol gewâfent gân / die recken von Berne, / die Dietriches man, / begürtet mit den swerten; 2252
 b. Da sah der tapfere Volker die Recken von Bern, die Gefolgsleute Dietrichs, in voller Bewaffnung, mit den Schwerten gegürtet, herankommen.
 c. Da sah der tapfere Volker die Recken aus Bern, die Gefolgsleute Dietrichs, gut gerüstet herankommen.

続いて, 現代語訳の一方が *kommen* で訳している例である。

- (31) a. Von einer kemenâten / sach man si alle gân. 280
 b. Von den Kemenaten her sah man den Zug herannahen.
 c. Von einem Frauengemach aus sah man den Zug kommen.
- (32) a. Sehs unt ahzec frouwen / sach man für gân. die gebende truogen. 572
 b. Sechsendachtzig Damen, alle geschmückt mit dem Gebände, sah man aus der Burg herauskommen.
 c. Sechsendachtzig Damen sah man daherschreiten, die den Kopfputz trugen.
- (33) a. Dô sach man Ruedegêren / under helme gân 2170
 b. Da sah man Rüdiger mit dem Helm auf dem Kopf einerschreiten.
 c. Da sah man Rüdiger gewaffnet daherkommen.

以上の例は、3.3で考察したような、用法1なのか用法3なのか形式的には判断できない例である。用法1と解釈すれば、現代語でも用法1の gehen で訳すことは可能である。しかし、gehen で訳されている例はない¹⁴⁾。kommen で訳されている例が多いということは、当該の現代語訳では、原文にはなかった到着点を指向した移動の意識が付加されているということになる。用法3と解釈すれば、kommen を用いた現代語訳では、視点の取り方が逆になっていることになる。

3.4.2 用法2の gân の例

以下の一例のみである。この例は、ab einem hûse という語句が共起しているため、用法2であることが一義的に判断できる例である。現代語訳はどちらも herabkommen で訳されている。原文と現代語訳では視点の取り方が逆になっている例である。

- (34) a. Dô sach der videlære / ein küene spilman, / der edeln küneginne / ab einer stiege gân / nider ab einem hûse. 1772
- b. Der Fiedler, ein tapferer Spielmann, sah die edle Königin eine Treppe am Palast herabkommen.
- c. Da sah der Fiedler und tapfere Spielmann die edle Königin eine Treppe von einem Hause herabkommen.

3.4.3 用法3の gân の例

次の例は到着点 hōchgezît が共起している用法3である。現代語訳bでは kommen で訳され、原文と現代語訳では視点の取り方が逆になっている。

- (35) a. An einem pfinxtmorgen / sach man für gân / gekleidet wūnecliche / vil manegen küenen man, / fünf tūsent oder mēre / dā zer hōchgezît. 271
- b. Am Morgen des Pfingstfestes konnte man viele tapfere Helden in wunderbaren Kleidern zum Fest kommen sehen.
- c. Am Pfingstmorgen sah man sehr viele tapfere Männer wundervoll gekleidet zum Fest ziehen.

次の例は ze hove が共起している例であり、上で述べたようにイディオム化している可能性があるが、現代語訳bでは kommen で訳されている。

- (36) a. man sach in hêrliche / mit recken hin ze hove gân 82
- b. In prächtigem Zuge kam er mit seinen Recken vor den König.
- c. Man sah Hagen in herrlichem Zug mit seinen Recken zum Hofe gehen.

14) ただし、(33)の現代語訳bは、到着点を指向した移動ではないことを表す einherschreiten で訳している。

3.5 使役動詞の不定詞句中で使用されている gån の例

3.4節では、知覚動詞の副文、不定詞句中で gån が用いられている例をみた。本節では、構文的には知覚動詞と同じ構文である、使役動詞の不定詞句中で使用された gån の例を考察する。共起する使役動詞は heißen と bitten である¹⁵⁾。現代語訳で gehen で訳されている例はなかった。

用法的には、知覚動詞の場合には用法(1)が大部分であったが、使役動詞の場合には、出発点を表す ûz ir kemenâten という語句が共起した次の用法2の一例を除き、残りはすべて用法3である。

- (37) a. dô hieze ir juncfrouwen / drîzec meide gân / ûz ir kemenâten / Kriemhilt diu künegin, / die zuo solhem werke / heten grœzlîchen sin. 361
- b. Da gab die Prinzessin Kriemhild Anweisung, daß dreißig Mädchen aus dem Kreis ihrer Hoffrâulein, die für eine solche Arbeit eine besondere Begabung hatten, aus ihrer Kemenate herauskommen sollten.
- c. Da ließ Königin Kriemhild dreißig Mädchen, die für eine solche Aufgabe besonders geeignet waren, aus ihrer Kemenate kommen.

それでは、以下、用法3の例を、移動の到着点が主節主語の例と、移動の到着点が主節主語か明確ではない例に分けながら挙げることにする。

3.5.1 移動の到着点が主節主語である例

以下の二例である。これらの例では、移動の到着点が主節主語であることが再帰代名詞によって明示されている。従って、この状況は、主節主語制約にもとづくと、現代語の gehen の使用が不自然になる状況である。しかし、gån が用いられている。

- (38) a. „drîzec mîner man / wil ich dar lâzen rîten.“ / die hieze er für sich gân. 733
- b. „Ich werde dreißig meiner Leute dorthin reiten lassen.“ Er rief sie sogleich zu sich
- c. „Dreißig meiner Leute will ich hinreiten lassen.“ Die ließ er zu sich kommen.
- (39) a. Uote bat dô drâte / die boten für sich gên. 772
- b. Da ließ Ute sogleich die Boten zu sich kommen.
- c. Da ließ Ute sogleich die Boten zu sich kommen.

gân は、知覚動詞の場合同様、使役動詞の場合も主節主語制約を持たないということである。

3.5.2 移動の到着点が主節主語か明確ではない例

以下の五例である。現代語訳で gehen で訳されている例はなかった。kommen を用いた現代語訳では、視点の取り方が逆になっていることになる。(42), (43), (44) はさらに zu hove が共起

15) lassen と共起している例も一例があるが、この例は her と共起しているため、3.1節で(15)として挙げてある。同様に、heißen が her と共起している例は3.1節で(12), (13), (14)として挙げてある。

している。

- (40) a. die stolzen jagetgesellen / hiez man zen tischen gân 963
 b. Und nun forderte man die stolzen Jagdgefährten auf, zur Tafel zu kommen.
 c. Die stolzen Jagdgesellen bat man zu Tisch.
- (41) a. die boten Kriemhilde / hiez man für Guntheren gân. 1482
 b. Da endlich ließ man die Boten Kriemhilds vor Gunther kommen.
 c. Man ließ die Boten Kriemhilds vor Gunther treten.
- (42) a. dô vrâgte man der mære / die unkunden man. / man hiez die boten balde / ze hove für den künec gân 141
 b. Da fragte man die unbekanntenen Männer nach ihrer Botschaft und forderte sie auf, sogleich an den Hof vor den König zu kommen.
 c. Da fragte man die unbekanntenen Männer nach ihrem Auftrag. Man ließ sie schnell am Hof vor den König treten.
- (43) a. er hiez gewinnen Hagenen / und ander sîne man / unt bat ouch harte balde / ze hove nâch Gêrnôte gân 148
 b. Er gab Befehl, Hagen und seine anderen Gefolgsleute herbeizuholen, und schickte auch in aller Eile nach Gernot.
 c. Hagen und andere seiner Leute ließ er zu sich rufen, und er ließ auch sogleich Gernot an den Hof kommen.
- (44) a. man bat die juncfrouwen / hin ze hove gên. 1680
 b. Man rief die Jungfrau, vor die Könige zu kommen.
 c. Man bat das junge Mädchen, zum Hof zu kommen.

3.6 語りにおいて視点の取り方が現代語では逆になる例

ニーベルンゲンの歌の語りの部分には、原文の gân が kommen で訳される例が多くある。この例は最後に挙げる過去完了の一例を除きすべて過去形で現れている。また、用法的には、次の一例が用法 (1) であることを除き、すべて用法 3 である。

- (45) a. ûf den wegen gie / mit klingenden zoumen / manec pfert wol getân 1305
 b. Viele edle Pferde kamen auf den Wegen mit klingendem Zaumzeug herbei.
 c. Auf den Straßen liefen viele edle Pferde, mit klingenden Schellen am Zaumzeug geschmückt.

それでは、まず、現代語訳がともに kommen で訳している例である。

- (46) a. Die tumben unt die wîsen / giengen, sô man tuot / vrâgen umbe mære. 768
 b. Und wie es bei solchen Anlässen zu sein pflegt, jung und alt kam und fragte nach

Neuigkeiten.

c. Jung und alt kamen, wie das so üblich ist, und fragten nach Neuigkeiten.

(47) a. niwan selbe zwelfter / er dar in zuo ir gie. 1226

b. In Begleitung von nur elf anderen war Rüdiger gekommen.

c. Er war nur mit elf Begleitern zu ihr gekommen.

次に、現代語訳の一方が gân で訳し、もう一方が komen で訳している例である。(50), (51) はさらに ze hove が共起している。

(48) a. Die fürsten zuo im giengen / unt sprächen alle drî 692

b. Alle drei Könige kamen zu ihm und sagten:

c. Die Fürsten gingen zu ihm und sagten all drei:

(49) a. Kriemhilt diu schœne / mit ir gesinde gie, / dâ si die Nibelunge / mit valschem muote empfie. 1737

b. Die schöne Kriemhild ging mit ihrem Gefolge zu den Nibelungen und empfing sie,

c. Die schöne Kriemhild kam mit ihrem Gefolge und begrüßte die Nibelungen in trügerischer Absicht.

(50) a. Die boten Liudegêres / ze hove giengen dô. / daz si ze lande solden, / des wâren si vil vrô. 164

b. Die Boten Liudegers kamen vor den König, froh drüber, endlich wieder nach Hause zu dürfen.

c. Die Boten Liudegers gingen an den Hof. Sie waren sehr froh, wieder nach Hause zurückzukehren zu dürfen.

(51) a. dô begunde Dancwart / hin ze hove gân. 1703

b. Da kam auch Dankwart zu Hofe.

c. Als Nächster ging Dankwart zum Hofe.

続いて、現代語訳の一方が komen で訳し、もう一方が gân 以外で訳している例である。

(52) a. In sabenwîzem hemedē / si an daz bette gie. 632

b. Nur mit einem feinen weißen Hemd bekleidet trat sie an das Bett heran;

c. In einem leinenweißen Hemd kam sie zum Bett.

(53) a. Dô giengen zuo ein ander / diu minnelichen wîp. 793

b. Nun traten die lieblichen Damen aufeinander zu,

c. Die liebenswerten Damen kamen zusammen.

(54) a. dâ ir der kûnec Etzel / hin engegen gie. 1350

b. als ihr der König Etzel entgegenschritt

c. als der König Etzel auf sie zukam.

- (55) a. dô gie im hin engegene / vil manec wætlicher man. 1565
 b. Da liefen ihm viele stattliche Männer entgegen.
 c. Da kamen ihm viele tapfere Männer entgegen.
- (56) a. Ein michel kraft der recken / dar zuo gewäfent gie. 2131
 b. Eine riesige Schar von Recken kam gewaffnet einher.
 c. Eine große Schar von Recken erschien gewaffnet.

最後に過去完了形の例である。現代語訳はともに (heran)kommen で訳している。

- (57) a. In der selben zîte / dô was ir schif gegân / der bürge alsô nâhen, / dô sach der künec stân /
 oben in den venstern / vil manege schœne meit. 389
 b. Unterdessen war ihr Schiff so nahe an die Burg herangekommen, daß der König nun oben
 in den Fenstern viele schöne Jungfrauen stehen sah.
 c. Währenddessen war ihr Schiff der Burg so nahe gekommen. Da sah der König oben in den
 Fenstern viele schöne Mädchen stehen.

以上、3.6節で挙げた例は、現代語であっても gehen で訳すことを阻止する要因はないと思われる。実際、gehen で訳されている例も散見される。しかし、実際には、多くの例が kommen で訳されている。これは、中高語では視点が出発点側にあったものが、現代語では視点が到着点側にあるものとして訳されていることを意味する。現代語訳の語りでは視点の取り方が到着点側になる傾向があるということである。

3.7 随伴移動構文

随伴移動構文とは、mit 節が共起し、主語の移動主体と mit 節の移動主体が同時に移動する構文と規定する¹⁶⁾。以下の例では、(58) では b の現代語訳で kommen が用いられている。(59) では b の現代語訳では kommen, c の現代語訳では gehen が用いられている。

- (58) a. er sprach: „ich selbe vierde: / zwêne mîne man, / Dancwart unde Hagene, / suln ze hove
 mit mir gân. 359
 b. Gunther sagte: „Wir fahren zu viert: zwei weitere Gefolgsleute, Dankwart und Hagen,
kommen außerdem noch mit.
 c. Er sagte: „Ich und drei. Zwei von meinen Leuten, Hagen und Dankwart, werden an den
 Hof mitreisen.
- (59) a. den spæhen videlære / bat er mit im gên 1759
 b. Er forderte den klugen Spielmann auf, mit ihm zu kommen.
 c. Er bat den begabten Fiedelspieler, mit ihm zu gehen.

16) 随伴移動構文に関しては Fillmore (1972) も参照されたい。

3.8 その他の例

以下、以上の分類に入らない二例である。

- (60) a. „wol ûf, ir helde, / ir sult ze Sifride gân. 502
 b. „Auf, Ihr Helden, Ihr sollt zu Siegfried kommen!“
 c. „Nur zu, Ihr Helden, Ihr sollt zu Siegfried gehen.“
- (61) a. ir Kriemhilde helde, / ir sult zen herbergen gân! 1822
 b. Ihr Helden Kriemhilds, Ihr sollt machen, daß Ihr nach Hause kommt!
 c. Geht zu Bett, Ihr Helden Kriemhilds.

どちらも現代語訳cは原文と同じgehenで訳している。(60)の現代語訳bがkommenで訳しているのは、移動主体がジークフリートがいる場所に到着するときに、話し手であるアルプリーヒがそこにいる、あるいは、移動主体と同時にその場所に移動するという解釈が可能だからと思われる。また、(61)の現代語訳bのkommenは、Watanabe (2002) が規定するダイクシスの制約を持たない無意志動詞のkommenであり、それが使役動詞と共に用いられているものである。

4. おわりに

本稿では、ニーベルンゲンの歌とその二つの現代語訳を対象に、原文のgânがkommenで訳されている例を抽出し、当該箇所を分類をおこなった。考察の説明原理としては、用法1, 2, 3の分類、ダイクシスの制約、視点の取り方という三つの原理が用いられた。

考察の結論は、gânがkommenで訳されている箇所は大きく言って以下のような場合であるとまとめられる。

- A) 話し手、聞き手がいる場所への移動を表す場合 (用法3)
- B) 知覚動詞の不定詞句中 (主に用法1)
- C) 使役動詞の不定詞句中 (主に用法3)
- D) 語りの部分 (用法3)

A) が観察されるのは、gehenは話し手、聞き手の場所に関するダイクシスの制約を持つが、gânはこれを持たないことが要因であるとされた。また、B), C) が観察されるのは、一部の例に関しては、gehenは主節主語制約に関するダイクシスの制約を持つが、gânはこれを持たないことが要因とされた。それ以外の例とD)に関しては、現代語訳では視点が到着点側に移動する傾向があると説明された。

以上、本稿のまとめであるが、本稿では逆のパターン、すなわち中高語のkomenが現代語のgehenで訳されている例を考察する余裕はなかった。しかし、例えば、現代語では視点が到着点に移動する傾向があるという結論は、komenがgehenで訳される例を考察しなければ、確定的

には断言できない。詳細な検討は今後の課題とするが、少なくとも、ニーベルンゲンの歌においては、komen が gehen で訳されている例は 7 例であった。

もう一つ大きな課題がある。それは、A) から D) の箇所であっても、komen が用いられている例は多数あるということである。例えば、話し手、聞き手がいる場所への移動が komen で表されている場合である。そうすると、同じ状況でありながら、なぜ一部の例では komen が用いられ、別の例では gān が用いられるのかという疑問が生じる。この疑問の解決のためにも komen の考察が不可欠である。

以上、komen の詳細な分析をすることを今後の課題として本稿を終えることにする。

謝辞

本稿を執筆するにあたり複数の匿名の査読者から貴重なコメントを多数いただいた。ここに記して感謝の意を表するものである。

使用テキスト

Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutscher Text und Übertragung. Hrsg., übersetzt und mit einem Anhang versehen von H. Brackert. Fischer. 1970 (Teil1), 1971 (Teil 2)

Das Nibelungenlied. Mittelhochdeutsch/Neuhochdeutsch. Hrsg. von U. Schulz, Hrsg., übersetzt von S. Grosse. Reclam Universal-Bibliothek. 2011.

使用コンコーダンス

A concordance to the Nibelungenlied, Bartsch-De Boor text. Franz H. Bäuml and Eva-Maria. Fallone. 1976.

使用辞書

独和大辞典コンパクト版 (第 2 版) 小学館

参考文献

Di Meola, C. (1994): *Kommen und gehen. Eine kognitiv-linguistische Untersuchung der Polysemie deiktischer Bewegungsverben*, LA 325.

Fillmore, C.J. (1972): How to know whether you're coming or going. In: *Descriptive and Applied Linguistics* 5. pp.2-17.

Shigeto, M. (2010): Origoverschiebung bei ‚kommen‘ und ‚gehen‘ im heutigen Deutsch und im Mittelhochdeutschen. In: *Grammatik und sprachliches Handeln* (Hrsg.) Japanische Gesellschaft für

Germanistik. pp.90–96.

Unebe, N. (1990): Old English *Cuman* and *Gan*: A Semantic Approach. In: 奥羽大学文学部紀要3. pp. 49–59.

渡辺伸治 (1988): 「現代ドイツ語移動動詞 *gehen/kommen* の共感度特性について」『教養学部教養学科紀要』20. (東京大学教養学部) pp.59–76.

Watanabe, S. (2002): Zur Deixis von *kommen*, *bringen* und *mitbringen*. In: *Zeitschrift für germanistische Linguistik* 30/3. pp. 342–355.

Watanabe, S. (2010): Zur Deixis von *gehen*. In: *Akten des XII. internationalen Germanistenkongresses Warschau 2010*. pp. 203–208.

渡辺伸治 (2016): 「go/come のダイクシス用法と非ダイクシス用法—具体的用法の場合—」『言語文化研究』42. (大阪大学言語文化研究科) pp.219–239.